

平成 25 年 5 月 16 日

各 位

会 社 名 サンコーテクノ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 洞下 英人
 (J A S D A Q ・ コード 3 4 3 5)
 問合せ先 取締役副社長 佐藤 静男
 電 話 0 4 - 7 1 7 8 - 5 5 3 0

(訂正・数値データ訂正あり) 平成 25 年 3 月期決算短信〔日本基準〕(連結)の一部訂正
に関するお知らせ

当社は、平成 25 年 5 月 15 日に発表いたしました「平成 25 年 3 月期決算短信〔日本基準〕(連結)」の一部について訂正がありましたので、下記のとおりお知らせいたします。なお、訂正箇所は下線を付して表示してあります。

記

訂正箇所 【サマリ情報 1 ページ】

1. 平成 25 年 3 月期の連結業績 (平成 24 年 4 月 1 日～平成 25 年 3 月 31 日)
 - (3) 連結キャッシュ・フローの状況

(訂正前)

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
25 年 3 月期	<u>594</u>	△408	<u>△382</u>	1,150
24 年 3 月期	537	△70	△493	1,313

(訂正後)

	営業活動による キャッシュ・フロー	投資活動による キャッシュ・フロー	財務活動による キャッシュ・フロー	現金及び現金同等物 期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
25 年 3 月期	<u>571</u>	△408	<u>△360</u>	1,150
24 年 3 月期	537	△70	△493	1,313

【本文4ページ】

1. 経営成績・財政状態に関する分析

(2) 財政状態に関する分析

②キャッシュ・フローの状況

(訂正前)

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は、594百万円（前連結会計年度は537百万円の増加）となりました。これは主として税金等調整前当期純利益765百万円に加え、減価償却費が238百万円、営業キャッシュ・フローその他の増加が311百万円となった一方、売上債権の増加額が437百万円、法人税等の支払額が172百万円となったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、408百万円（前連結会計年度は70百万円の減少）となりました。これは主として有形固定資産の取得による支出が363百万円となったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は、382百万円（前連結会計年度は493百万円の減少）となりました。これは主として短期借入金の純減少額が400百万円となったことによるものであります。

当社グループのキャッシュ・フロー指標のトレンドは下記のとおりであります。

	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期
自己資本比率 (%)	46.5	47.4	47.5	49.1	50.8
時価ベースの自己資本比率 (%)	28.2	26.6	26.6	29.1	38.1
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	7.9	4.7	8.0	7.1	<u>6.0</u>
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	9.7	21.8	23.8	23.1	<u>31.6</u>

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

(注1) いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

(注2) 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

(注3) キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

(注4) 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

(訂正後)

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動による資金の増加は、571百万円（前連結会計年度は537百万円の増加）となりました。これは主として税金等調整前当期純利益765百万円に加え、減価償却費が238百万円、営業キャッシュ・フローその他の増加が289百万円となった一方、売上債権の増加額が437百万円、法人税等の支払額が172百万円となったことによるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動による資金の減少は、408百万円（前連結会計年度は70百万円の減少）となりました。これは主として有形固定資産の取得による支出が363百万円となったことによるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動による資金の減少は、360百万円（前連結会計年度は493百万円の減少）となりました。これは主として短期借入金の純減少額が400百万円となったことによるものであります。

当社グループのキャッシュ・フロー指標のトレンドは下記のとおりであります。

	平成21年3月期	平成22年3月期	平成23年3月期	平成24年3月期	平成25年3月期
自己資本比率 (%)	46.5	47.4	47.5	49.1	50.8
時価ベースの自己資本比率 (%)	28.2	26.6	26.6	29.1	38.1
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年)	7.9	4.7	8.0	7.1	<u>6.2</u>
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍)	9.7	21.8	23.8	23.1	<u>30.5</u>

自己資本比率：自己資本／総資産

時価ベースの自己資本比率：株式時価総額／総資産

キャッシュ・フロー対有利子負債比率：有利子負債／キャッシュ・フロー

インタレスト・カバレッジ・レシオ：キャッシュ・フロー／利払い

(注1) いずれも連結ベースの財務数値により計算しております。

(注2) 株式時価総額は自己株式を除く発行済株式数をベースに計算しております。

(注3) キャッシュ・フローは、営業キャッシュ・フローを利用しております。

(注4) 有利子負債は、連結貸借対照表に計上されている負債のうち利子を支払っている全ての負債を対象としております。

以上